

令和4年9月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

伊豆東岸定置網における令和4年下半期の漁海況予測

当場では令和4年下半期（7～12月）の相模湾の海況及び伊豆東岸定置網主要魚種の漁況を神奈川県水産技術センターと協議して予測しました（右表）。

黒潮は大蛇行流路が継続する見通しで、解消の兆候はみられません。そのため沿岸水温は「平年並み」～「高め」で推移し、暖水が波及した場合には「極めて高め」となることであると予測しました。

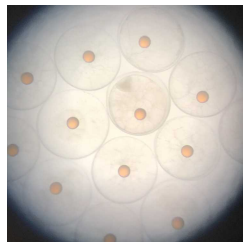
また、主要魚種の来遊量は、ゴマサバとブリで「前年を大きく上回る」または「前年を上回る」と予測しましたが、その他の魚種では「前年並み」～「前年を大きく下回る」と予測しました。

海況	黒潮は期間を通してA型で推移する。沿岸水温は「平年並み」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
マアジ	来遊量は前年を大きく下回る。魚体は尾又長15～20cm及び20cm以上。
マサバ	来遊量はゴマサバに混じる程度。魚体は尾又長30cm前後。
ゴマサバ	来遊量は前年を大きく上回る。魚体は尾又長25～30cm及び30cm以上。
マイワシ	来遊量は前年並み。魚体は被鱗体長10～15cm。
カタクチイワシ	来遊量は前年並み。魚体は被鱗体長7～9cm主体。
ブリ	来遊量は前年を上回る。わかし・いなだ銘柄主体。
スルメイカ	来遊量は低調な前年並み。

キンメダイふ化仔魚飼育の状況

今年度の飼育研究は、前年の成果を活用し、釣獲した親魚に麻酔をかけ活かしたまま伊豆分場へ持ち帰り、施設内で人工授精する方法を進めています。

8月までに計14回の親魚採捕に乗船し、うち36尾の雌で人工授精を実施しました。得られたふ化仔魚は、水温や水質管理に気を配りながら、動物プランクトンなどを与えて飼育したところ、最長でふ化7日後までの生残を確認しました。9月は産卵期の後半になりますが、仔魚を少しでも長く生残させられるよう工夫を重ねたいと思います。



↑受精卵



↑ふ化4日後の仔魚



↑ところてんを突き出す参加者



↑ちりモンを探す参加者

県民の日イベント2年ぶりの開催

8月12日、県民の日特別企画「研究所夜間公開」を実施し、事前に申込みいただいた38名の方に御来場いただきました。

当日はあいにくの雨模様となり、当初予定していた屋外タッチプールは中止とさせていただきますが、参加者には、ところてん試食、ブダイの海藻摂食シーンが見られた飼育実験室公開、雨天特別企画として開催した「ちりモン（ちりめんモンスター）教室」の3つの会場を順に御覧いただきました。

今年の結果を踏まえて、来年度はより面白いイベントにしていきたいと思います。

9月の予定 ●イセエビ予測検討・発表（下田、南伊豆）●カタクチイワシ・ウルメイワシ資源評価会議（14日）
●中央ブロック資源海洋調査研究会（28～29日 高知市）●イセエビ測定 ●キンメダイの人工授精・ふ化仔魚飼育試験 ●潜水調査（稲取 アントクメ調査、下田 磯根漁業指導）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。